

クリタ株主通信

株主の皆様へ

2014年3月期 第2四半期

2013.4.1～9.30



【目次】

| | |
|------------------------|----|
| 企業理念・企業ビジョン・クリタの特長 | 1 |
| トップインタビュー | 3 |
| あなたとつながるクリタ | 7 |
| 2014年3月期 第2四半期連結業績のご報告 | 9 |
| トピックス | 15 |
| 会社情報・株式情報 | 17 |
| 株主メモ | 19 |

企業理念

“水”を究め、自然と人間が 調和した 豊かな環境を創造する

水の本質を深く、広く追究することによって、
水の新しい機能、価値を生み出し、
限りある水を最大限有効活用することにより、
社会に貢献していきます。

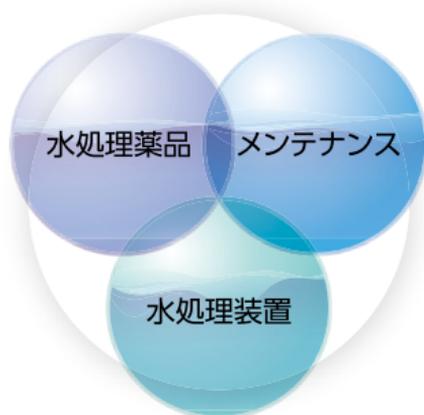
企業ビジョン

水と環境の 先進的マネジメント企業

クリタグループは
「水のマネジメント」をさらに進化させ、
限られた水資源を有効活用する
「先進的マネジメント」の実現をめざします。

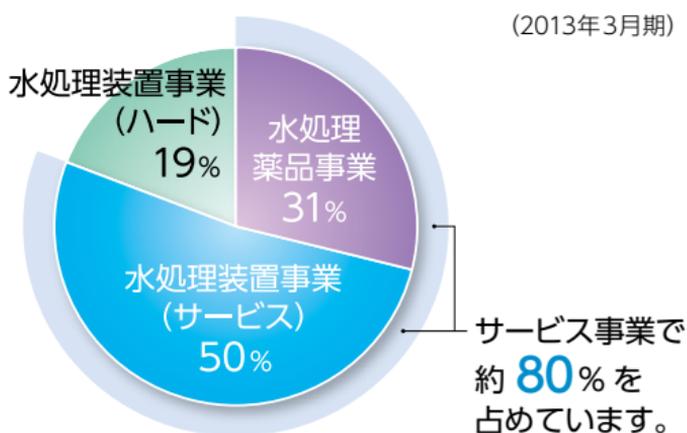
クリタの特長

- 「水と環境」の分野において、3つの機能をバランスよく併せ持つのはクリタだけです。



- 収益性が高く安定的なサービス事業の比率が約80%を占めています。

(2013年3月期)



- 安定配当の継続を基本方針とし、配当の増額に努めていきます。

■ 1株当たり配当金 (年間) の推移



トップインタビュー

株主の皆様には、
平素より格別のご高配を賜り、
厚くお礼申しあげます。
2014年3月期 第2四半期の
事業概況などに対する、
株主の皆様のご質問にお答えいたします。

Q1 | 2014年3月期 第2四半期の連結業績の
概要と、通期の連結業績予想の修正について
説明してください。

世界経済は、堅調な米国経済に支えられ、緩やかな回復を示しましたが、欧州経済の停滞、中国をはじめとする新興国経済の減速など先行き不透明な状況が継続しました。国内においては、円高の是正や経済対策の実施

連結業績ハイライト (億円)

| | 当第2四半期 2013年4月1日～ 2013年9月30日 | 前年同期比 | 前第2四半期 2012年4月1日～ 2012年9月30日 |
|----------|------------------------------------|--------|------------------------------------|
| 受注高 | 897 | 4.6%減 | 941 |
| 売上高 | 828 | 8.3%減 | 902 |
| 営業利益 | 67 | 38.3%減 | 109 |
| 経常利益 | 72 | 36.9%減 | 113 |
| 四半期純利益 | 41 | 15.6%減 | 49 |
| 1株当たり配当金 | 22円 | 1円増 | 21円 |

※金額は億円未満を四捨五入して表示しています。



代表取締役社長

中井 稔之

により企業収益は上向きつつあるものの、設備投資や生産動向は、大幅な改善には至りませんでした。

このような環境のなか、当第2四半期の連結業績は非常に厳しいものとなりました。国内では、主要顧客である製造業の操業度の回復が遅れ、設備投資も低調であったことから、主力商品・サービスの受注高・売上高が減少しました。海外では、電子産業における水処理装置の設備投資の中止や延期が発生しました。

この結果、受注高・売上高については、水処理薬品事業は微増にとどまり、水処理装置事業は減少しました。利益については、減収の影響、海外装置事業における不採算案件の発生、海外での人員増強に伴う販売費及び一般管理費の増加により、前年同期に比べ大幅に減少しました。

以上のような第2四半期の状況を踏まえ、2013年10月11日に当第2四半期および通期の連結業績予想について下方修正を行いました。顧客操業度や設備投資の回復は緩やかであり、当社グループの業績への波及も遅れると予想されることから、期初の予想の達成は難しいと判断したためです。

2014年3月期通期 連結業績予想の修正 (億円)

| | 2013年4月1日～ 2014年3月31日 | | 2012年4月1日～ 2013年3月31日 |
|------------|--------------------------|----------------|--------------------------|
| | 修正前 | 修正後 | 前期連結実績 |
| 売上高 | 1,910 | 1,760 | 1,801 |
| 営業利益 | 235 | 150 | 210 |
| 経常利益 | 240 | 158 | 220 |
| 当期純利益 | 140 | 90 | 115 |
| 1株当たり当期純利益 | 117.48 円 | 75.53 円 | 92.43 円 |
| 1株当たり配当金 | 44 円 | 44 円 | 42 円 |

※金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

Q2 | 今後の経営課題と
その解決に向けた施策について
教えてください。

当第2四半期の営業利益率は8.1%と、前年同期の12.0%から大幅に悪化し、第2四半期としては2006年3月期以来の低水準となりました。収益性の回復は最大かつ喫緊の経営課題です。

収益性悪化の要因として、市場環境の悪化を背景にした競争の激化によって受注価格が低下していることや、国内装置での案件の小型化が挙げられます。また、海外装置の案件で追加コストの発生もありました。

当社グループの強みであった高い収益力を再び取り戻すためには、グループが一体となり、「水処理薬品・水処理装置・メンテナンス」の総合力を発揮し、付加価値の高い提案を実施する必要があります。当社グループには、長年培った技術やノウハウがあることに加え、新商品・新技術の開発においても他社に引けを取りません。この技術力と開発力をベースに、顧客ニーズを捉えた魅力ある提案を行っていきます。また、特に装置事業において、営業・設計・生産部門が連携して、標準化などの原価低減に

取り組み、海外においては設計・調達・施工管理の現地化を推進します。

具体的には、中国や韓国において、海外事業会社との連携を強化し、顕在化しつつある収益性の高いメンテナンス需要を獲得していきます。とりわけ価格競争が激しい台湾においては、コストダウンを目的に、営業部門と生産部門の共同プロジェクトを立ち上げ、標準化・現地化・購買力強化を早期に推し進めていきます。さらに東南アジアにおいては、「水処理薬品・水処理装置・メンテナンス」のシナジーを発揮すべく、シンガポールに統括役員を配置しました。各拠点が連携し、それぞれの得意商品の集中生産を行うとともに、原材料の一括購入や人員の域内活用などを推進します。

これらの施策によって、営業利益率を早期に2年前の水準である15%に回復させたいと考えています。

Q3 | 株主還元について聞かせてください。

当社は、安定配当の継続を基本方針として、業績の推移および事業への投資を勘案のうえ、配当金の増額に努めてきました。当期の中間配当については、足元の業績は厳しいものの、株主の皆様のご期待にお応えするために前年同期比1円増の1株当たり22円とさせていただきます。

また、2013年8月には、自己株式1,363万株（消却前の発行済株式総数の10.27%）の消却を実施しました。今後も株主価値の最大化をめざし、配当金の増額とともに資本効率の向上にも努めていきます。

株主の皆様には、日頃のご高配に心からお礼を申しあげますとともに、今後も一層のご支援をお願いします。

2013年12月

株主の皆様の身近な場所にある、クリタグループとの「つながり」に焦点を当て



安全性と品質を追求した水処理システム

医薬品製造用水処理システムには、高い安全性と品質管理に考慮して、さまざまな工夫が施されます。まずハード面、すなわち各装置の製作段階では高度な溶接技術や粉塵・汚れの完全な除去が必要です。各装置や配管には不純物の溶出量が少ないステンレスを採用し、水が滞留しないよう配管に勾配を付け、滅菌のため蒸気などで

加熱する工程も備えています。

一方、ソフト面では、医薬品の安全性や品質に関する、さまざまなデータを記録して文書化し、水処理システムの設備・性能が要求レベルを満たしているかを検証するバリデーション (Validation) に対応しなければなりません。医薬品は海外にも輸出されるため、製造設備の健全性を示すバリデー

ションが求められるのです。クリタでは今後も、厳しい条件が要求される医薬分野に、高度な技術力で貢献していきます。



▲ 医薬品製造用水処理システム

製薬に必要な高純度の水を提供

ドラッグストアで買ったり病院で処方される、さまざまな医薬品。クリタは医薬品に不可欠な高純度の水をつくる医薬品製造用水処理システムを通じて、広く医療の現場に貢献しています。

医薬品をつくる水

医薬品の原材料または製造に用いられる水は「医薬用水（製薬用水）」と呼ばれ、主に以下があります（※）。

● 精製水・水道水などの原水から、RO（逆浸透）膜やイオン交換樹脂により、不純物やイオンを取り除いたもの。主に固形剤の製造に用いられる。

● 滅菌精製水・精製水から、UF（限外濾過）膜により、細菌やピロジェン（Pyrogen：体温を上昇させる発熱性物質）を除去したものの。主に薬の容器や製造ラインの洗浄に使用される。

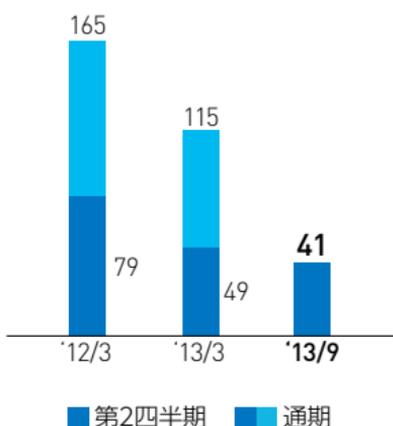
● 注射用水・滅菌精製水を蒸留水製造システムで蒸発処理するなどして、さらに品質を高めたもの。

非常に高い純度が求められる、これら医薬用水のニーズに対し、先進の膜技術などを活かしたクリタの医薬品製造用水処理システムが役立っています。

※日本薬局方では、製薬用水は常水・精製水・精製水（容器入り）・滅菌精製水（容器入り）・注射用水・注射用水（容器入り）の6つに分類される。

連結業績等

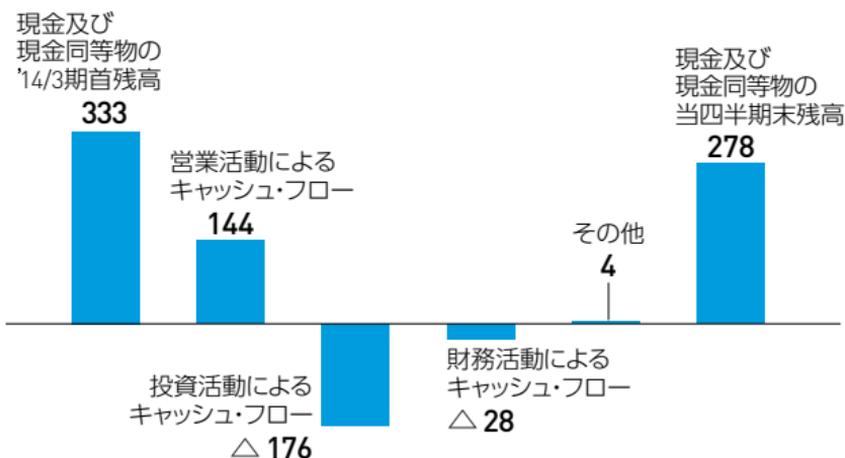
四半期(当期) 純利益 (億円)



資産 (億円)

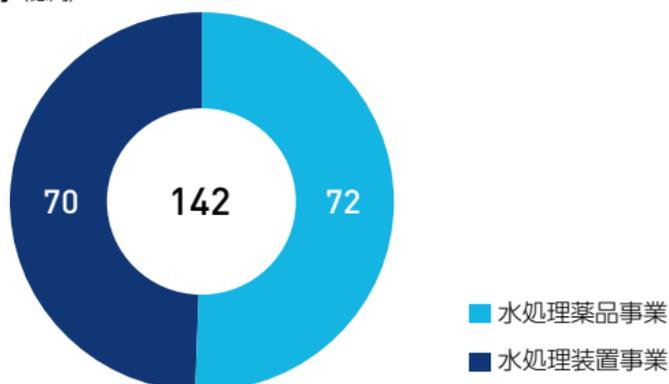


連結キャッシュ・フロー (億円)



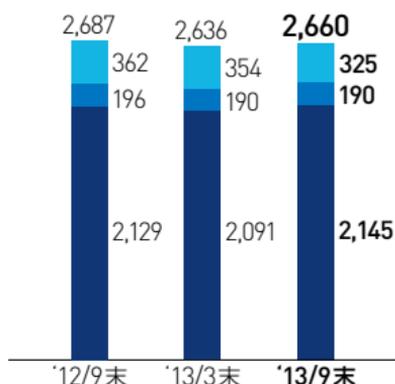
海外事業 (事業別・地域別売上高)

事業別 (億円)

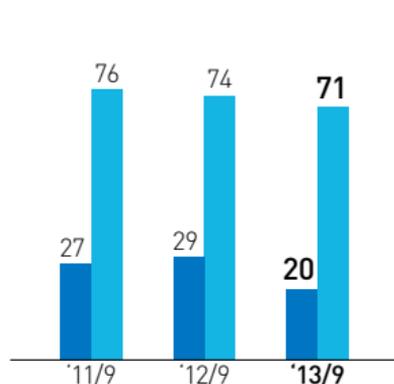


※グラフの金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

負債・純資産 (億円)



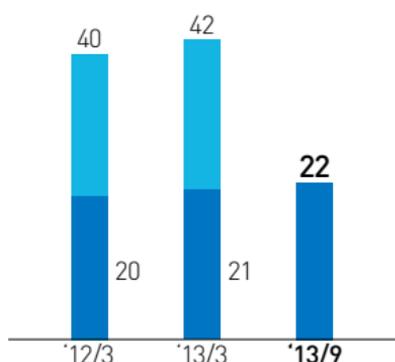
設備投資額・減価償却費 (億円)



■ 純資産 ■ 固定負債
■ 流動負債 ■ 負債純資産合計

■ 設備投資額 ■ 減価償却費

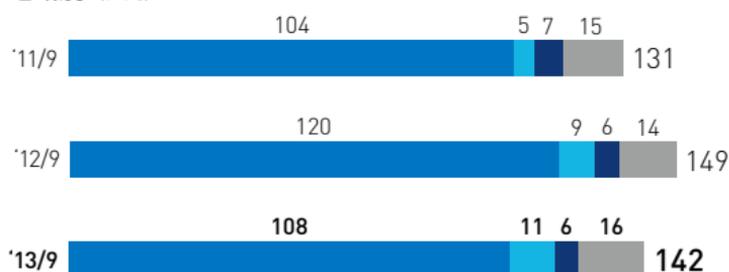
1株当たり配当金(年間) (円)



■ 第2四半期 ■ 通期

※グラフの金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

地域別 (億円)



■ アジア ■ 北米 ■ 欧州 ■ その他

セグメント別ハイライト

水処理薬品事業

受注高 293億円 (前年同期比2.2%増)

売上高 288億円 (同0.5%増)

営業利益 44億円 (同5.3%減)

受注高・売上高については、国内では、顧客工場の操業度の回復の遅れにより、主力のボイラ処理薬品、排水処理薬品、紙・パルプ向けプロセス薬品が減少しました。



海外では、円安効果もあり、中国・東南アジアを中心に、冷却水薬品、排水処理薬品、逆浸透膜処理薬品が増加しました。

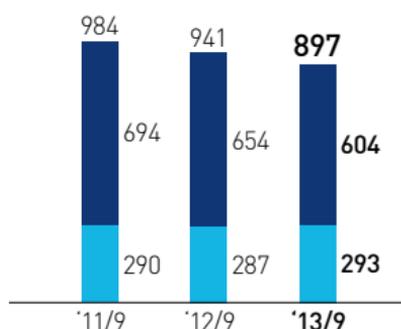
この結果、このセグメントの受注高は前年同期比2.2%増、売上高は同0.5%増となり、共に微増となりました。

利益については、原価率の改善や増収効果はあったものの、主に海外での人員増強のための販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は同5.3%減となりました。

セグメント別業績の推移

- 水処理装置事業
- 水処理薬品事業

受注高 (億円)



水処理装置事業

受注高 604億円 (前年同期比7.6%減)
 売上高 540億円 (同12.3%減)
 営業利益 23億円 (同63.1%減)

受注高・売上高については、国内では、東日本大震災の復旧需要の一巡により、電力向けの水処理装置が減少しました。電子産業分野でも設備投資需要や顧客工場の操業度の回復は鈍く、水処理装置、メンテナンス・サービスが共に減少しました。超純水供給事業は2013年3月期における契約条件の変更の影響により微減となりました。

海外では、東アジアにおける電子産業向け大型案件で受注の取り消しや受注済案件の着工の延期があり、受注高・売上高が共に減少しました。

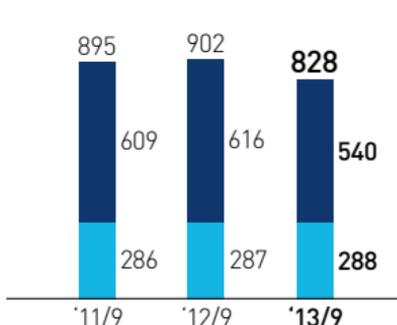
この結果、このセグメントの受注高は前年同期比7.6%減、売上高は同12.3%減となりました。



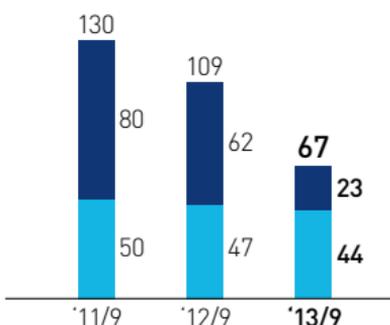
利益については、減収の影響、海外装置事業における不採算案件の発生による原価率の悪化、海外での人員増強による販売費及び一般管理費の増加により、同63.1%減となりました。

※金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



注) 営業利益の合計は、セグメント間取引除去に伴う調整後で表示しています。

四半期連結貸借対照表(要旨) (単位: 億円)

| | 当第2四半期 (2013年9月30日現在) | 前第2四半期 (2012年9月30日現在) | 前期 (2013年3月31日現在) |
|---------------|--------------------------|--------------------------|----------------------|
| 【資産の部】 | | | |
| 流動資産 | 1,517 | 1,522 | 1,469 |
| 現金及び預金 | 418 | 242 | 430 |
| 受取手形 | 72 | 66 | 61 |
| 売掛金 | 473 | 522 | 553 |
| 有価証券 | 440 | 595 | 340 |
| たな卸資産 | 74 | 62 | 49 |
| その他 | 39 | 35 | 36 |
| 固定資産 | 1,143 | 1,165 | 1,167 |
| 有形固定資産 | 819 | 905 | 868 |
| 建物(純額) | 220 | 253 | 237 |
| 機械及び装置(純額) | 365 | 399 | 362 |
| その他(純額) | 234 | 253 | 270 |
| 無形固定資産 | 16 | 18 | 16 |
| 投資その他の資産 | 308 | 242 | 283 |
| 資産合計 | 2,660 | 2,687 | 2,636 |

四半期連結損益計算書(要旨) (単位: 億円)

| | 当第2四半期 (2013年4月1日~ 2013年9月30日) | 前第2四半期 (2012年4月1日~ 2012年9月30日) | 前期 (2012年4月1日~ 2013年3月31日) |
|----------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|
| 売上高 | 828 | 902 | 1,801 |
| 売上原価 | 560 | 603 | 1,210 |
| 売上総利益 | 267 | 299 | 591 |
| 販売費及び一般管理費 | 200 | 191 | 381 |
| 営業利益 | 67 | 109 | 210 |
| 営業外収益 | 5 | 6 | 13 |
| 営業外費用 | 1 | 1 | 3 |
| 経常利益 | 72 | 113 | 220 |
| 特別利益 | — | 12 | 16 |
| 特別損失 | 5 | 38 | 39 |
| 税金等調整前四半期(当期) 純利益 | 67 | 87 | 198 |
| 法人税等 | 25 | 38 | 82 |
| 少数株主利益 | 0 | 0 | 1 |
| 四半期(当期)純利益 | 41 | 49 | 115 |

※金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

| | 当第2四半期 (2013年9月30日現在) | 前第2四半期 (2012年9月30日現在) | 前期 (2013年3月31日現在) |
|----------------|--------------------------|--------------------------|----------------------|
| 【負債の部】 | | | |
| 流動負債 | 325 | 362 | 354 |
| 支払手形 | 16 | 15 | 15 |
| 買掛金 | 145 | 170 | 165 |
| その他 | 164 | 176 | 174 |
| 固定負債 | 190 | 196 | 190 |
| 退職給付引当金 | 111 | 106 | 108 |
| その他 | 79 | 90 | 82 |
| 負債合計 | 515 | 558 | 545 |
| 【純資産の部】 | | | |
| 株主資本 | 2,074 | 2,141 | 2,058 |
| その他の包括利益累計額 | 58 | △ 24 | 20 |
| 少数株主持分 | 13 | 11 | 12 |
| 純資産合計 | 2,145 | 2,129 | 2,091 |
| 負債純資産合計 | 2,660 | 2,687 | 2,636 |

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) (単位：億円)

| | 当第2四半期 (2013年4月1日～ 2013年9月30日) | 前第2四半期 (2012年4月1日～ 2012年9月30日) | 前期 (2012年4月1日～ 2013年3月31日) |
|----------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 144 | 166 | 273 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △ 176 | △ 206 | 43 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △ 28 | △ 33 | △ 186 |
| 現金及び現金同等物に 係る換算差額 | 4 | 0 | 5 |
| 現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少) | △ 55 | △ 73 | 135 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 333 | 198 | 198 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末 (期末) 残高 | 278 | 126 | 333 |

詳細は当社ホームページでご確認ください。

URL <http://ir.kurita.co.jp/>

栗田工業 IR

検索 

トピックス

ボイラ処理薬品「クリタイト®」に3商品を追加

食品と食品添加物^(注1)のみを原料とした安全性の高いボイラ処理薬品「クリタイト®」のラインナップを拡充しました。新たに追加したのは、蒸気復水系処理薬品としては国内で初めて商品化に成功した「クリタイト®-VR」、小型貫流ボイラなどの缶内でスケールの付着防止に効果を発揮する「クリタイト®-EF」、ボイラに付帯するエコノマイザー^(注2)の腐食防止薬品として新たに開発した「クリタイト®-AS」の3商品です。

これらの新商品により、ボイラ缶体はもとより蒸気および復水^(注3)系統、付帯設備まで含めたボイラプラント全体で安全性の高い薬品処理が可能となります。当社では、ラインナップの拡充により、食品・飲料、医薬品の工場などのお客様を中心に、設備保全や安全運転、省エネルギーなどへの貢献に加え、「安全・安心」のニーズに応える水処理を提供していきます。

注1 日本の食品衛生法で定める食品および食品添加物を指す

注2 エコノマイザー：ボイラの排熱を利用してボイラへの給水を予熱しボイラの効率を高める付帯装置

注3 水蒸気が熱を失って水に戻った状態

冷却水薬品の新シリーズ「KURITA ST」を市場投入

新開発のポリマー素材を用いた冷却水薬品の新シリーズ「KURITA ST」を商品化しました。一般の工業用水だけでなく、RO処理水（逆浸透膜で処理した水）、排水の回収水など幅広い水質で高い防食^(注)効果を発揮する、低環境負荷の冷却水薬品です。

新開発した低分子ポリマー素材の働きで、防食成分を水中で最適な状態に維持し、緻密な防食皮膜を素早く金属表面に形成します。そのため当社従来商品と比べて2倍以上の防食効果を発揮し、腐食性の高い水質にも対応できます。これにより薬品使用量を抑え、リンや亜鉛などの環境負荷の低減とランニングコストの削減を実現します。当社では、国内外の石油化学・石油精製市場を中心に「KURITA ST」の拡販を推進し、5年後に20億円の受注をめざします。

注 配管など金属材料の腐食の防止

クリタ水・環境科学振興財団へ基本財産を追加拠出

当社は、公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団の基本財産として寄付金5億円を追加拠出しました。同財団は、栗田工業およびクリタグループ各社の出捐により1997年3月に設立され、水と環境の科学の分野における調査・研究およびその国際交流に対する助成事業などを運営しています。

設立から16年を迎えた同財団では、助成内容の充実を図るとともに、広く海外の研究者への助成の拡大を計画中です。当社はこの主旨に賛同し、同財団の運営資金の拡充のため、2013年度に5億円を基本財産として寄付しました。同財団では2013年度の助成事業において、新たに「水を究める」研究テーマの募集を行うほか、海外での研究助成を積極的に進めるため、タイ国での現地募集を行いました。

『クリタグループ環境報告書 2013』を発行

クリタグループでは2013年8月に『クリタグループ環境報告書 2013』を発行しました。「社会ニーズ」「お客さまニーズ」「社内変革」の3つの側面における環境改善活動の実績や、お客さま工場・事業所での環境改善事例をご紹介します。



詳細は、同報告書および弊社ウェブサイト「環境への取り組み」ページ
<http://www.kurita.co.jp/environment/index.html>
 をご覧ください。

会社概要 (2013年9月30日現在)

| | |
|------------|---|
| 商号 | 栗田工業株式会社 (Kurita Water Industries Ltd.) |
| 本社所在地 | 東京都中野区中野四丁目10番1号 中野セントラルパークイースト |
| 設立年月日 | 1949年7月13日 |
| 資本金 | 134億5,075万円 |
| 従業員数 | 1,581名 (連結4,740名) |
| ホームページアドレス | http://www.kurita.co.jp/ |

取締役および監査役 (2013年6月27日現在)

| | |
|-----------|-------|
| 代表取締役社長 | 中井 稔之 |
| 代表取締役専務 | 佐伯 哲男 |
| 常務取締役 | 梶井 馨 |
| 常務取締役 | 飯岡 光一 |
| 常務取締役 | 伊藤 潔 |
| 取締役 | 依田 元之 |
| 取締役 | 名村 生人 |
| 取締役 | 黒川 洋一 |
| 取締役 | 中村 清次 |
| 監査役 | 葛生 知明 |
| 監査役 | 林 史郎 |
| 監査役 (非常勤) | 宇多 民夫 |

(注) 1. 取締役のうち、中村清次は会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

2. 監査役のうち、葛生知明および宇多民夫は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

グループネットワーク

国内 当社および子会社27社の合計28社で構成されており、全国を網羅する販売・サービス網により、水処理に関する商品・技術・サービスを幅広く提供しています。

海外 子会社13社および関連会社1社の合計14社で構成されており、グローバル事業の拡大に向けて世界各地で事業を展開しています。

本冊子に関するお問い合わせ先 経営企画室 企画部 広報課
TEL. 03-6743-5007

株式の状況 (2013年9月30日現在)

| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 531,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 119,164,594株 |
| 株主数 | 35,124名 |

大株主 (2013年9月30日現在)

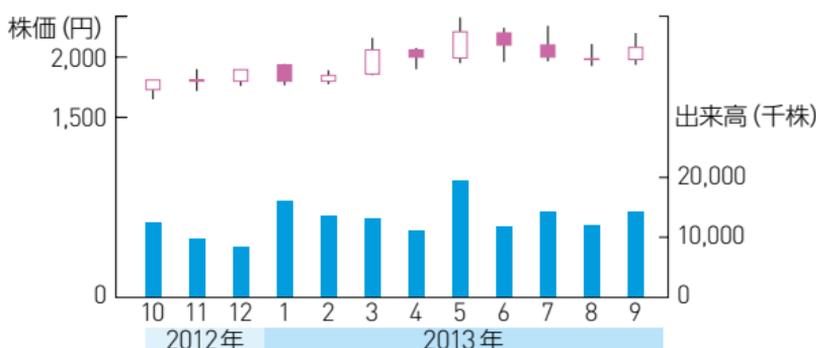
| 株主名 | 持株数 (株) | 持株比率 (%) |
|---|------------|-------------|
| 日本生命保険(相) | 6,502,383 | 5.45 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口) | 5,447,200 | 4.57 |
| ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウント アメリカンクライアント | 4,380,355 | 3.67 |
| 全国共済農業協同組合連合会 | 3,380,300 | 2.83 |
| ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラーアカウント | 3,029,000 | 2.54 |
| 東京海上日動火災保険(株) | 2,586,926 | 2.17 |
| 日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口) | 2,442,900 | 2.05 |
| ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウント プリティッシュクライアント | 2,243,051 | 1.88 |
| (株)三菱東京UFJ銀行 | 2,056,131 | 1.72 |
| ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リユーエス タックス エグゼンテッド ペンション ファンズ | 1,929,200 | 1.61 |

所有者別株式分布状況 (2013年9月30日現在)

| | 持株数* (千株) | 持株比率 (%) |
|---------|--------------|-------------|
| 金融機関 | 35,370 | 29.7 |
| 証券会社 | 1,076 | 0.9 |
| その他国内法人 | 11,048 | 9.3 |
| 外国人 | 54,134 | 45.4 |
| 個人 | 17,535 | 14.7 |
| 自己株式 | 0 | 0.0 |
| 合計 | 119,164 | 100.0 |

*千株未満を切り捨てて表示

株価および出来高の推移



株主メモ

| | |
|-----------------------------------|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日～翌年3月31日 |
| 定時株主総会 | 6月 |
| 利益配当金受領株主確定日 | 3月31日 |
| 中間配当金受領株主確定日 (中間配当を行う場合) | 9月30日 |
| 基準日 | 3月31日 (そのほか臨時に必要があるときに あらかじめ公告いたします。) |
| 公告掲載新聞 | 日本経済新聞 |
| 株主名簿管理人および 特別口座管理機関 (電話照会先) | 三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目 4番1号 フリーダイヤル 0120-782-031 (受付時間：平日 9：00～17：00) |
| (郵便物送付先) | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目 8番4号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部 |
| 同取次窓口 | 三井住友信託銀行株式会社全国各支店 |

諸手続きお問合わせ先(住所変更、単元未満株式の買取請求、未払配当金の照会等)

- ・証券会社の口座に記録された株式の場合
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
ただし、未払配当金の照会については、三井住友信託銀行株式会社(株主名簿管理人)にお申出ください。
- ・特別口座に記録された株式の場合
三井住友信託銀行株式会社(株主名簿管理人および特別口座管理機関)にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。



この冊子は、適切に管理された森林由来のFSC®認証紙に、植物油インキを使用して印刷しています。